

平成29年度 緑区地域活性化支援事業 補助金交付団体一覧

I 地域づくり活動支援コース

No	団体名	活動・事業名	事業の目的	取組内容	実施場所	期待する効果・成果	交付決定額(円)	審査委員会コメント
1	かがやき子食堂	地域の子どもが「安心できる居場所」づくり事業	・緑区における「孤食」を無くし、地域で子ども達が安心して集える場所を作る。 ・6人に1人の子どもが「貧困」という日本で、子ども達が生きやすい社会づくりを地域から興す。 ・食卓を共にするなかで、互いに抱えている家庭、経済的な「困りごと」を発見できる場とし、その解決のために考えられる関係づくりをする。	・月に1度、「子どもがひとりでも来られる食堂」を開催する。 ・安い料金(100円)で夕食を提供し、大勢で食卓を囲む楽しさを感じてもらおう。 ・給食が無い夏休みなどにはランチタイムでの食堂開催。	おゆみ野キリスト教会 菅田チャペル	・地域での「孤食」がなくなること。 ・様々な意味で困窮している子どもや家庭に、行政等から必要な支援が入り、困った時に頼れる場所が出来る事。 ・地域住民同士がつながり、隣近所、地域の子ども達に目を向けられるようになること。	200,000	社会問題となっている子どもの「孤食」を無くす為、いち早く子どもの居場所づくり事業に取り込み、実現性の高い内容の活動となっている事を評価します。 今後、より活動が周知されるようにPR活動にも力を入れ、補助金終了後を見据えた運営体制を築くことを期待します。
2	アートタウンおゆみ野	文化芸術を活かした地域のまちづくり	・文化芸術やおゆみ野の特性・資源を生かしたまちづくりの推進。 ・文化芸術を支える人材の育成と活躍の機会の提供。 ・地域の人たちが身近に文化芸術に触れる機会の提供。	おゆみ野地区には文化芸術活動を行う団体が多くある。地域住民に単体の活動状況やイベント情報を知っていたり、参加してもらおう情報発信を行っていく。また、イベントをバックアップする為のプロデューサーやスタッフの育成講座を継続して行う。 昨年引き続き、音楽団体やアート団体の交流の場づくり、地域住民が気軽に参加できるイベントの開催を行う事により、まちの活性化を図る。	鎌取CC ちばぎんホール	・おゆみ野文化祭に参加した団体同士が情報交換を行うことにより、連帯感が深まり、お互いのレベルアップに繋がること。また住民が自ら音楽会や作品展を企画し、地域に提供し合って文化や芸術にあふれる街にする。 ・学校と連携し、子ども達自身の企画によって文化活動の場を盛り上げていく。 ・情報誌を発行し、おゆみ野地域で活動する団体を周知し、多くの住民の方がイベントに参加する機会を増やして、おゆみ野の文化・芸術の素晴らしさを実感してもらおう。	200,000	おゆみ野文化祭等のイベントを通じて、地域の団体と連携して文化・芸術の振興をリードしており、地域に定着した活動となっている事を評価します。 今後は、子ども達を始め、より多くの人が参加する側から企画運営する側として主体的に関われる活動になる事を期待します。
3	ゆんたくグループ ゆいまーる	居場所 ゆんたくスペース ゆいまーる	私たちの周りに、発達障害や家族とのかかわりがうまくいかず一人で悩み、生きづらさを感じている人達がたくさんいます。そういった方々がゆんたくと過ごせる居場所作りを始めました。気軽に相談が出来て、コミュニケーションや生活のルールを学ぶと共に、お互いに支え合いながら、地域の中で自信を持ち、よりよい人生をすごしていけるような場所作りを目指します。	・生きていくための学びの場 生活の中で獲得していく知識やスキルをあらためて意識学ぶ。 ・お話し 日々の悩みや疑問を話す場所として開催。 ・土曜午後プログラム 指導者による身体づくりを始め、体操プログラムを開催。	トケムシービル1F スペースコミュ 土気公民館等	色々な違いや特性をお互いに理解し、助け合える地域になる事を目指し、サポートする側、される側と区別するのではなく、どちらの側にもなりながら、地域が成長し合える環境が作られることを期待します。	200,000	発達障害の方、その家族等の居場所として、通年利用できる環境づくりに向けての取り組みについて評価します。 専門機関等と連携することにより、より良い活動になると思っています。活動の理解者・協力者を増やすために、講演会・学習会の開催によるニーズの掘り起こしに努めてください。
4	みずき・かつら街おたすけ隊	助け合い家事援助事業	みずき・かつら街自治会は、設立後30年以上が経過し、高齢者の多い自治会となっている。ひとり暮らしや高齢者のみの世帯が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう必要な支援を行う。	自治会内の高齢者が日常生活で困っていることをお手伝いする。 ・庭掃除(雑草除去) ・電球、蛍光灯の交換 ・障子、網戸の張替 ・部屋、浴槽の掃除 ・その他上記に準ずる作業 自治会員が参加するイベント(夏祭り、体育祭等)を盛り上げるために協力していく。	みずき・かつら街自治会エリア	年々高齢化が進んでいくために、この活動には終わりが無く、自治会の活動事業の一つとして取り入れ、次の世代に順次引き継いでもらい、高齢者が安心して暮らせることを望む。	50,000	ひとり暮らしや高齢者のみ世帯への支援として、具体的な活動を実施して実績を残していることを評価します。 今後は、補助金終了後も継続的な活動を続けていくために、協力員を増やして活動の認知度を高めるとともに、利用者から負担金を徴収する等、運営費を確保することについて検討していただく。
5	土気絵本の会	「土気絵本の会」活動事業	・読書ボランティア活動に興味を持って参加してくれる方を増やし、読書推進活動を活発にする。 ・現在、学校等で「絵本の読み聞かせ」や「昔話」を実施している人達のスキルアップを図る。 ・地域の人達を年齢を問わず絵本の世界に誘い、子どもから大人まで楽しめる事を伝える。 ・第1人者の方々の力を借りて、今後の活動に繋げる。	・定例会 テーマに沿って絵本の世界を楽しむ会。 ・講演会 「マーシャ・ブラウンとその作品を語る」 ・おはなし会の実践と指導	土気公民館 緑区ボランティア活動室 萩生町内会館	・ボランティアのスキルアップ勉強会で、絵本の知識を深め、子どもと本を繋げる活動に関わる人が育ってほしい。 ・地域の高齢者に、図書館で懐かしい本と出会い、楽しんでほしい。 ・絵本、昔話を通して、読書の喜びを多くの人に伝えたい。	50,000	小学校等と連携し、絵本を通して人との繋がりが見える事を評価します。他の団体との連携や学校以外の場所での活動を進めることにより、より多くの子ども達が参加し、交流を深めていく事を期待します。
6	学校サポート隊	学校のサポート隊	おゆみ野は転居してきた住民で構成されている新しい街である。したがって住民間に連帯感や一体感が育っているとは言えない。そこで次世代を築く小中学生の子ども達と関わりを深めて支援する事を通して、家庭・地域との連携を築き、地域に生活する住民の一員であることを自覚させたい。	①あいさつ運動 ②花植え活動 ③算数教室 ④名人と遊ぼう ・お手玉・ペーゴマ・竹馬等の昔遊び ・田植え、野菜づくり、縄跳び等	有吉中学校 有吉小学校 扇田小学校	今我々が子ども達と関わっていく中で、地域の方々と共に活動する楽しさを体験させ、支え合いの大切さを知らせたい。そしてその子ども達がおゆみ野のまちづくりに関わり、おゆみ野を愛し、より良い街にする為に貢献する大人へと成長してほしい。	50,000	あいさつ運動など、地道な活動によって子ども達と地域の方々との繋がりを深めており、子ども達の健全育成と地域の絆づくりに寄与している事を評価します。 補助金交付終了後も、継続して活動する為に、人材の掘り起こしを行うとともに、運営費等の確保を検討してください。
7	カフェ たんぽぽ	認知症&ケアラズカフェ	国の認知症施策である新オレンジプランの施策の一つである認知症カフェ、ケアラズカフェの実施、運営を行う。認知症の人も介護をする人も、日頃の思いや介護に関する情報交換など気兼ねなく参加できる場所づくりを目指す。悩みを抱える人の孤立を防いだり、より良い介護のための情報交換や情報を発信する場所を目指す。	オレンジカフェ(認知症カフェ、ケアラズカフェ)を月1回より開催する。認知症、介護に関する情報交換や悩みや愚痴の言える息抜きの場所づくり。専門職の協力を得て、専門職としてのアドバイスを行える機会も作っていく。	スペース・コミュ(土気町)	地域の活動として根付き、誰でも気軽に参加できるような場所となる事。	50,000	多くのボランティアと協力して、認知症当事者や家族にとつての居場所・相談の場となっていることを評価します。 医療機関や介護保険事業所等と連携を取ることで、より一層参加者が増えていく事を期待します。
8	ウエルエイジングの会	楽しく長生きするために...ウエルエイジングの考えで...	ウエルエイジングとは上手に年を重ねる、加齢を抗うのではなく、楽しく、健康に、穏やかに年をとること。 ・高齢者の居場所作り。 ・高齢者の健康づくり(介護に頼らない生活を送る)。 ・同世代との交流(孤立しない地域を作る)。 ・高齢者に必要な情報や知権の提供。	・あんしんケアセンター:体操・健康についての話、相談等 ・シニアリーダによる体操 ・お楽しみ会、季節ごとのイベント、多世代との触れ合い、情報交換 ・地域のイベント参加、学校のイベントに協力 ・その他(体操、歌、ダンス、ゲーム、他)	おゆみ野公民館	・高齢者同士、交流が増え孤立しない地域づくりが出来ること。 ・必要な知識を学び、高齢者がいざという時に問題を解決できるように、地域で支え合えるようになってほしい。 ・楽しく健康に穏やかに年を重ねてほしい為、楽しい居場所になること。	50,000	高齢者が孤立しないような居場所作りや高齢者同士の交流等、これからの高齢化社会を見据えた活動を実施していることを評価します。 補助金の交付終了後も活動を継続していくために、協力者を増やすとともに、運営費の確保に努めてください。
9	緑区シニアリーダ連絡会	シニアリーダ体操	独居老人が増えている中で、高齢者が、住み慣れた地域で出来る限り自立して健康な暮らしを続けるには、運動を柱とした適切な生活行動の習慣化が大事。年を取っても元気で健康長寿な地域づくりにより、寝たきりや認知症を減らし、介護予防に資する活動に取り組む。	介護予防のための知識や運動指導を学んだシニアリーダが、高齢者向けの体操教室を開催する。骨盤体操とスクワット、腹筋運動などの体操と脳トレニングを組み合わせて、機能低下の改善を行う。	公民館、自治会館、小学校など	家に閉じこもりがちなお年寄りが外に出て、元気にウォーキングしたり、サークル活動に参加して人との繋がりをきずくような生きがいを持った健康な地域になる事を目指したい。	50,000	高齢者の寝たきりや認知症予防に対して非常に有効な活動であり、高齢者の元気づくり活動の担い手となる事を期待します。 指導員、参加者を増やし、継続的に活動できるように周知活動にも力を入れてください。
10	「がんトーク」の会	がんトーク	・がん患者、家族、遺族と共に気持ちの整理のお手伝い。 ・悩みに寄り添い、想いに共感し、同じ目線に立つ事で共に解決方法を探す。解決は本人が導き出すものと考え、それまでのお手伝い。	「みんなの広場」を借りて、がん経験者が「がんトーク」を開催。主催者はがん患者、家族、遺族の経験があり、県のがんピアサポート研修、グリーフケア専門など終了。来訪者の気持ちに寄り添い、地震の経験を通した言葉を交わすことで、「自分だけではない」と気づき、また失敗談や体調維持の工夫など、知識ではなく体験からの情報を生で交換する事が出来る場となるよう活動。	みんなの広場	病気になるっても、今までと変わらない生活が出来るように周囲の理解や協力が得られ、病気になる人も家族も、独立する事無く安心して住める地域になる事を望み活動を続ける。	50,000	悩みを抱えて孤立しがちになるがん患者やその家族を、地域で支えていく取り組みについて評価します。 外部講師等を呼んで講演会を開催する等、より多くの方に認知されるよう周知活動にも力を入れて継続して活動してください。

No	団体名	活動・事業名	事業の目的	取組内容	実施場所	期待する効果・成果	交付決定額 (円)	審査委員会コメント
11	おゆみの道・緑とせせらぎの会	おゆみの宝を次世代につなぐプロジェクト パート1	・おゆみの歴史や自然他誌についての資料の掘り起こしを多世代のネットワークで行ない、それらの価値を学ぶために、体験学習会、展示、講演会等を実施し、継承する為の糸口を作る。 ・多世代が自分の住む生活空間の歴史や自然について調べられる資料集(初年度は目録)を作り、関係機関に配布する等、誰でも気軽に利用出来るようにする。	(1)資料収集および整理 ・関連資料、調査報告等の提出お願い ・過去のプロジェクトで蓄積した資料のまとめ ・「おゆみの宝を調べよう(目録)」作成 (2)事業推進のための広報活動 ・地図で見るおゆみの歴史(展示会等) ・おゆみ野八景コンテスト	おゆみ野全域及び図書館等	本プロジェクトの成果物である資料集は、郷土の歴史や他誌を知る為の資料が縦横に繋がるので、絶好の羅針盤となり、一段と学習しやすくなると考えます。また、こうした重層的な成果により子ども達のはつらつと学習しやすく、シルバー層もいきいきとした街であり続けられることを期待します。	49,000	地域の環境保全・保護に対する熱意が強く感じられ、地域の宝(資料)を掘り起こすという新たな視点での取り組みを評価するとともに、より多くの人が共有できるような資料の作成を期待します。 過去3年補助金を受けた事業と、実績や会計等における積み分けを明確にして実施してください。
12	金平糖	「ていーてらす金平糖」でつながろう	自分の病気体験、家族介護体験を通じ、「こんなあったらいいな」と思ったものを形にしたいと考え活動開始。 (1)自らの体験は貴重な社会資源と考え、「できる時に できることを無理なく ちよこつと」活動を継続すること。 (2)自分だけでなく関わる人や地域のウェルビーイングを高める共生社会づくりを目指す事。 (3)互いの「困った」に耳を傾け、情報交換し、学び合う事によって主体的に医療や福祉の問題を考え、行動する。	(1)お茶っこ片手に地域の誰もが気軽に思いのままに過ごせるティーサロンを開く。 (2)ケアグッズ作り 県立がんセンターや子ども病院等に届けるケアグッズを作る。 (3)「食と健康」の自主ミニ講座 多くの人にとって関心のある「食」を取り上げ、自分達の体験、自分達の暮らしの中で出てくる疑問等をもとに、互いに学び合う機会とする。実習を通して、仲間意識の醸成を促し、交流を深める。	みんなの広場 おゆみ野地域	この地域に、様々なニーズを持った人がいる事に気づき、「困った時はお互い様」と声をかけ、助け合える街になること。	39,800	病人だけでなく、ケアに係わる人をケアするという活動等、様々な立場の方が気軽に立ち寄れる居場所作りを行っている事を評価します。 今後は、事業内容や実績などを積極的に広報して、活動を広めていくことを期待します。
13	おゆみ野アーカイブ	まるごとおゆみ野	・おゆみ野の歴史を紐解くと興味深いものがあるものの、宅地開発により新住民が多くなった今、歴史に触れる機会が少ない。 ・地域を知る手立てとして、おゆみ野の歴史をWEB上に集め、発信することにより、郷土愛を育む。 ・おゆみ野地域には主体的に活動をしている団体が多く見受けられるため、WEBを活用し、活動内容を情報提供することにより活動の場を作る。	・情報ポータルサイトの作成 ・おゆみ野の歴史の収集と掲載 ・地域のあらゆる情報発信をする場としてのWEBの周知	おゆみ野地域	今後、作成する情報ポータルサイトが独自性を発揮できるよう創意工夫を図るとともに、活動内容のPR活動にも力を入れて取り組むことを期待します。	130,000	このたびは、年度初めの大変お忙しいところ、また、追加募集に十分な検討期間がない中ご申請いただきましてありがとうございました。 慎重な審査の結果、備品購入の必要性が高いとは認められなかったことから、今年度においては、交付申請額から備品購入費を減額した金額を交付決定額とします。 今後、作成する情報ポータルサイトが独自性を発揮できるよう創意工夫を図るとともに、活動内容のPR活動にも力を入れて取り組むことを期待します。 なお、報償費の支出については、事業趣旨に沿った補助金の活用がなされるようご注意ください。
				計			1,168,800	

III 地域拠点支援コース

No	団体名	活動・事業名	事業の目的	取組内容	実施場所	期待する効果・成果	交付決定額 (円)	備考
14	みんなの広場	地域公益活動を支援する拠点事業	日常生活の中で、地域共有の課題を発見し、その解決のために新しい事を始めようとして、既に活動が軌道に乗っていても、その活動を継続的・安定的・かつ形骸化しないよう維持する為には、個々の団体や個人の努力以上にその活動を後押しする環境が必要である。多世代が集まって情報を共有しつつ発信し合い、共同で活用できる資源が整い、人材育成の機能を併せ持ちながら、楽しく交流できる場を作っていくことを目指して、みんなの広場を設置する。	以下のような機能を持つ地域拠点とする。 ・団体が学習会や研修会を開催できる学びの拠点 ・情報収集と発信の拠点 ・個人や団体が交流し、情報共有と連携力を高める拠点 ・地域の誰もが自由に入出りできる拠点(カフェ運営) ・既存団体の活動支援として、会議や物品の保管場所としての拠点 ・各種団体や個人の活動成果を披露展示する発表の拠点	「みんなの広場」 おゆみ野地域	・困難な状況にある人達の声やニーズを引き出して、互いに助け合うという風潮を醸成する。 ・孤立して活動していた団体やそのイベントが、互いに情報共有や連携することにより、企画力と実践力が高まり、団体や地域のクオリティが上がる。 ・企画運営者のノウハウの蓄積により、イベントのクオリティが高まり、参加参加者が増える。 ・活動サポートの場が認知されることにより、新たなチャレンジをする人材が増え、地域や社会へ参画のハードルが下がり、より多くの人たちが地域運営に関わるようになり、地域が活性化される。 ・若者との連携により、地域に新しい風が吹き、子どもや高齢者が元気な地域になる。	1,200,000	地域で個々の団体が行っている活動を支援する取り組みであり、活動拠点として定着しており、事業を実施する中で、他の団体や教育機関との連携が複数生まれている事を評価します。 補助金終了後の運営継続に向けて、運営費の確保に向けての取り組みを検討してください。

全コース合計 交付件数 14件 交付決定額 合計 2,368,800
(3コース合計の予算額) (3,200,000)